

研究タイトル：

地域環境および地域生物多様性の保全



氏名： 湯谷 賢太郎 / YUTANI Kentaro E-mail: yutani@c.kisarazu.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(学術)

所属学会・協会： 土木学会, 日本水環境学会, 応用生態工学会, 日本生態学会, 日本湿地学会, 日本環境教育学会

キーワード： 応用生態工学, 生物多様性, 水圏生態環境, 里山, 里海, 環境教育

技術相談
提供可能技術：
・生物多様性の調査・研究・保全手法に関する相談
・水圏生態系の調査・研究・保全手法に関する相談
・水質調査・分析等に関する相談

研究内容： 里山・里海の応用生態工学的研究

現在、我が国の生物多様性は野生動植物の減少や里山・里海の荒廃、外来種の侵入などにより深刻な危機に直面しています。このような課題を解決するためには、地域の特性に合わせた多様な主体による保全活動が必要です。現在当研究室では、以下の様な課題に取り組んでいます。

- ◆ 盤洲干潟の塩生植物群落の成立要因に関する研究および保全手法の検討
- ◆ 干潟のカニ類の生息環境評価及び生物攪拌による環境浄化機能の評価

盤洲干潟は、東京湾に残された唯一最大の自然干潟であり、非常に貴重な環境が残されています。しかし、現代において自然のままの姿を残し続けることは難しく、盤洲干潟にも徐々に環境の変化が訪れています。そのような環境を保全し、後世に伝えていくために何をすべきかを研究しています。また、そこに多く生息するカニ類は、生物攪拌という効果を通して環境の浄化に寄与しています。その浄化量の評価を試みています。

- ◆ トウキョウサンショウウオの生態に関する研究と生息する谷戸環境の保全手法の検討
- ◆ 教育目的利用による里山環境の持続的利用と里山環境の再生

近年、生物多様性における里地・里山の重要性が見直されてきました。トウキョウサンショウウオは房総をはじめとした関東地方の丘陵地に生息する希少な両生類です。その保全には、生態の情報が不可欠ですが、まだ明らかでない部分が多く、トウキョウサンショウウオの生態を明らかとするための研究を行っています。里山環境の保全には常に人が手を加え続けることが重要であり、従来の「保護」の考え方では守ることはできません。しかし、主に農業従事者の高齢化により、里山の多くは管理放棄され、急速に環境の劣化が進んでいます。そのような環境を守り、後世に伝えていくための活動と研究をしています。



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	